

# エチオピア西南部農耕民アリの女性の生活実践における「もの」の利用

—地域内の素材で製作された台所用具の利用を中心に—

南佳枝

## 本論の背景と目的

アリ (Aari) の人びとは、地域内の素材をつかって多くの「もの」<sup>(1)</sup>を製作、利用している。近年、都市部と彼らが暮らす地域とをむすぶ道路の整備がすすみ、さまざまな「もの」や人が地域外から大量に流入するようになった。本論の目的は、1)このような状況下において地域内の「もの」や外からもたらされた「もの」(以下、外来の「もの」)それぞれの利用の状況をあきらかにすること、2)女性によって管理・利用されている台所用具の利用状況をより詳細に記載し、宗教、世代、経済的背景の異なる女性たちの「もの」の利用の状況についてあきらかにすることである。本論のもとになる調査は、2010年8月2日から2010年11月24日計114日間、エチオピア南部諸民族州南オモ県南アリ郡メツァ村に暮らす6人の女性を対象におこなった<sup>(2)</sup>。

## 調査村概要

メツァ村は、南オモ県の県都ジンカ市から北へ約30kmに位置しており、標高およそ1,600mの山あいにある。主な民族はアリとよばれる人びとである。彼らは、エチオピア西南部に約13万人暮らしており、定住的な農耕活動を営んでいる。主な栽培植物はエンセーテ *Ensete ventricosum*、ヤムイモ、タロイモなどの根菜類、トウモロコシやモロコシ、オオムギなどの穀類、コーヒー、コロリマ (*Aframomum corrorima*) などの換金作物である。エンセーテは、パショウ科の多年生作物でエチオピア南部のみで食用として栽培されているだけではなく、儀礼や治療にも利用される有用植物である [重田 1988]。アリには、カースト的な社会集団が存在し、大きくカンツァ *kantsa* とマナ *mana* にわけられる。カンツァは主に農耕を生業とし、マナはアリの人びとが日常生活で利用する土器、鉄製品、木工品などを製作することを生業としている [金子 2011]。

## アリの人びとが日常生活で利用する「もの」—10年間での素材の変化—

ここでは、経済的背景が異なる2世帯(世帯A:世帯主が50歳以上で保有する耕地面積が平均以上〈10*timad*<sup>(3)</sup>〉の世帯、世帯B:世帯主が20歳代で保有する耕

表 1. 世帯 A, B が日常生活で利用する「もの」の素材別にみた品目数と点数

		地域内の素材で製作された「もの」						
		土器	鉄製品	木工品	竹	ヒョウタン	その他	合計
A	品目	15	7	19	4	2	6	53
	点数	22	10	39	5	2	11	89
B	品目	9	7	12	4	2	4	38
	点数	16	11	18	5	11	4	65

地域外からもたらされた「もの」

		プラスチック	陶器	ガラス	その他	合計
A	品目	10	1	4	21	36
	点数	30	10	10	34	84
B	品目	9	1	1	3	14
	点数	28	3	3	3	37

地面積が平均以下の世帯，以下世帯 A と世帯 B) を対象に，それぞれの世帯が利用する「もの」について調査をおこなった結果をもとに報告する。

金子が 2000 年におこなった調査 [金子 2011] を参考にアリ語で方言を同じくするものを品目とし，「もの」の総点を点数としてかぞえた．世帯 A と世帯 B が利用する「もの」の品目と点数の総数はそれぞれ 89 品目 173 点，52 品目 105 点であった (表 1)．そのうち，地域内の素材で製作された「もの」(以下，地域内の「もの」) は A, B それぞれ 53 品目 89 点，38 品目 65 点，外来の「もの」は A, B それぞれ 36 品目 84 点，14 品目 37 点であった (表 1)．

両世帯とも，外来の「もの」よりも地域内の「もの」を多く利用していた．地

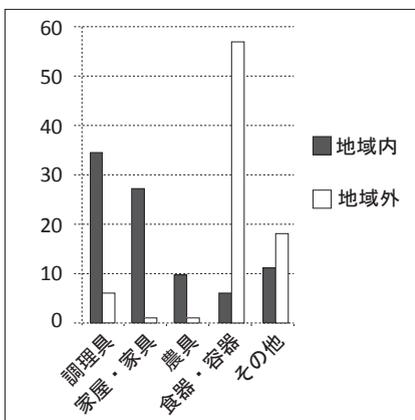


図 1. 「もの」の用途 (世帯 A)

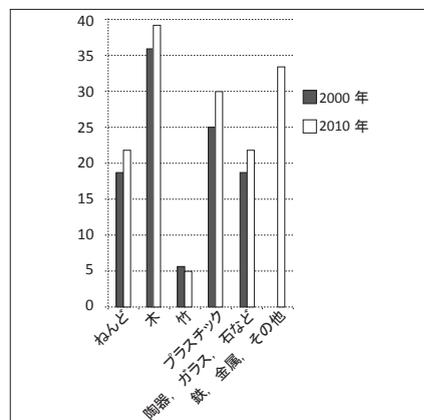


図 2. 世帯 A' (2000 年) と世帯 A (2010 年) の利用する台所用具の素材 (点数)

2000 年の資料は金子 [2011] による。

表 2. 世帯 A が利用する「もの」の入手方法

	購入	注文購入	製作	他	合計
妻	104 (40)	0	5 (5)	0	109 (45)
夫	4 (2)	13 (13)	8 (8)	0	25 (23)
他	28 (17)	0	4 (0)	9 (5)	41 (22)
合計	136 (59)	13 (13)	17 (13)	9 (5)	175 (90)

括弧：地域内の素材で製作された「もの」.

域内の「もの」のうち、世帯 A、B ともに木工品、土器、鉄製品を高い割合で利用していた。外来の「もの」のうち、世帯 A、B ともプラスチック製品を多く利用していた。用途別にみると、食事の際に利用する器は、外来の「もの」を使用する傾向があり、台所用具の多くは地域内の「もの」を使用する傾向があった。また家屋や家具に関しては、屋根に使用するトタン以外すべて地域内の素材を使用する傾向があった（図 1）。世帯 A が利用する「もの」の総点数（89 品目 173 点）と 2000 年に金子が調査おこなった世帯 A' が利用する「もの」の総点数（47 品目 124 点 [金子 2011]) を比較すると、2010 年の調査の方が増加の傾向にあった。素材別では、地域内の「もの」の利用にあまり変化はみられなかった一方で、プラスチック、陶器、ガラス、金属類など外来の「もの」の数は増加していた（図 2）。

### 地域内の素材で製作された台所用具の利用

次に、6 世帯の女性を対象にして土器、鉄製品、木工品などの台所用具の利用について検討していく。調査をおこなった「もの」の多くが台所での作業に関連しており（図 1）、その多くは女性が購入し、保有しているものであった（表 2）。

#### 土器

アリの土器はティラ・マナ (*tila-mana*) と呼ばれる職能集団の女性によってつくられる。金子によればアリの人びとは「1 つの土器を兼用して必要最低限の数だけ所有するのではなく、それぞれの用途別に数多く所有するという特徴がある」[金子 2011: 40]。筆者がおこなった調査においても、観察した 20 品目の土器ひとつひとつに対して名前がつけられ、それをもとに使われていた。6 世帯の既婚女性が保有している土器の平均個数は 15.5 個、最も多かったのは、モサ・ティル *mosa til* とよばれるエンセーテ調理用の土器であった（表 3）。女性たちが利用・保有する土器の品目数に極端な差はなく、30 代、40 代の点数が高かった。また、世帯 A の夫人と世帯 B の夫人では、土器の品目数と点数に極端な差はなく、世代、宗教、経済的背景が異なる女性であってもほぼ同様に土器を利用しているといえる。金子が 2000 年に実施したアンケート調査では、平均個数は 12.9 点、1 品目につき 1 番多く所有していた土器はモサ・ティラであった [金子 2011]。以上のことから、10 年間で土器の利用に大きな変化はないことが示唆された。

表 3. 土器の利用点数の内訳 (6 世帯)

世帯	世帯名	F	A	B	C	D	E	
既婚女性	宗教	P	P	T	T	T	P	
	年代	60代	40代	30代		20代		
器種	方名							平均
アクシヤ 	ブナ・アクシ	1	1	1	1	0	1	0.8
	バルシ・アクシ	1	2	1	1	1	1	1.2
ティル 	ブン・ティル	2	1	1	1	0	0	0.8
	アスニ・ティル	1	2	0	1	1	0	0.8
	エケナ・ティル	0	1	2	0	0	0	0.5
	モサ・ティル	2	2	3	2	2	5	2.7
	ガビジャ・ティル	1	0	0	1	0	1	0.5
	ティマ・ティル	0	2	1	0	0	0	0.5
	ギーニ・ティル	0	1	0	1	0	0	0.3
	マタージャ	0	0	0	0	3	0	0.5
	ラーツイ・ティル	0	1	0	0	0	0	0.1
アンツイ・ティル	1	0	0	0	0	0	0.1	
ディステイ 	ウォーツィ・ディステイ	1	2	3	1	2	2	1.8
	バーチャ・ディステイ	0	1	0	0	0	2	0.5
	ダーツァ・ディステイ	0	0	0	1	0	0	0.1
ビルキ 	ビルキ	0	2	3	3	1	2	1.8
	コッダ・ビルキ	0	0	0	0	3	0	0.5
	ガビジャ・ビルキ	0	1	0	0	0	0	0.2
ジャバナ	ジャバナ	0	2	1	1	2	2	1.3
その他	イタン・アクシ	0	1	0	0	0	0	0.1
合計		10	22	16	14	15	16	-

(6 世帯の既婚女性からの聞き取りにより作成)

宗教：P：プロテスタント，T：在来宗教。

世帯名：F：寡婦世帯，B：一夫多妻（妻 2 人）世帯。



写真1. 鉄製品 (5品目)

### 鉄製品

アリの鉄製品はファカ・マナ (*faka-mana/paka-mana*) とよばれる職能集団の男性によってつくられる。鉄製品は計7品目観察した(写真1)。1世帯が保有する鉄製品の平均は8.8点で、もっとも多く利用されていた鉄製品はゴシャ *gosha* とよばれる手鋏であった(表4)。ウオッカ *wokka* とよばれる鉞(ちょうな)は男性のみ利用する傾向にあった。Gebre [1995] は、ワリ *nali* と呼ばれる鎌が多目的に用いられ、時には武器としての役割もあったと述べている。近年は、殺傷事件にワリが用いられることが多い。その他の鉄製品については、1990年代はじめと2010年現在も同じように利用されていた。

表4. 鉄製品の利用点数の内訳

	A	B	C	D	E	F	平均
アルファ	1	1	1	1	2	1	1.2
シリ	2 (1)	2	1	1	2	1	1.5
ゴシャ	3 (2)	4 (3)	2 (1)	1	3 (2)	1	2.3
ワリ	2 (1)	1	2 (1)	0	3 (2)	1	1.5
フダ	1	1	1	1	2	1	1.2
ボイラ	2	0	1 (1)	0	0	0	0.5
ウオッカ	1	1 (1)	1 (1)	0	1 (1)	0	0.7
計	12	10	9	4	13	5	-

括弧：夫とともに利用または保有している数を括弧内に示した。

表 5. 木工品の利用点数の内訳

	A	B	C	D	E	F	平均
ディル (大)	1	1	0	1	1	1	0.8
ディル (小)	1	1	1	0	1	1	0.8
ゴンガ (大)	1	3 (3)	1 (1)	5 (5)	2 (2)	1	2.1
ゴンガ (中)	1	0	1	0	1	1	0.6
ゴンガ	2	1	1	0	1	2	1.1
アーガ・サーファ	0	0	0	0	0	1	0.1
ウォッチッティ	1	1	1	0	0	0	0.5
ガンダ	1	1 (1)	0	2 (2)	0	0	0.6
その他*	4	3	2	1	5 (1)	3	3.0
合計	12	11	7	9	11	10	10.0

括弧内の数字は、職人に注文して入手した木工品数。

\* 現地語名が同定できなかった木工品。

### 木工品

台所用品としての木工品は計 13 品目観察した。食材を攪拌する棒、ヨーグルトを攪拌する棒、コーヒーの葉やハーブなどを細かく砕く小さな木臼 (ディル *dil*)、コーヒーの豆や葉、穀類や家畜の飼料用の葉を細かく砕く大きな木臼、酒造りにもちいる舟形容器 (ガンダ *ganda*) (写真 2)、高台がついた器 (ウォッチッティ *wochiti*) などが製作、利用されていた。最も頻繁に利用されていたのは、ゴンガ *gonga* (写真 2) とよばれる器であり、職人に注文して、入手していることが多かった (表 5)。ゴンガは、大きさに応じて、ウシの飼料入れや、足洗い、盛り皿などに使いわけていた。盛り皿として利用されるゴンガには、バルツィ *balsi* とよばれる模様が描かれていた。



写真 2. ゴンガ (女性の前) とガンダ (女性の右) を利用しておこなわれる酒づくり

## その他の植物を利用した台所用品

### 1) フェニックスヤシ (メツァ *metser*)

フェニックスヤシの葉・葉軸を用いて、以下のものが利用されていた。1) ザンプル *zambul* : 買い物籠。2) ウオンピット *wonfit* : 篩 (ふるい) / 濾し器。3) ガサ *gasa* : 敷物。調査をおこなった6世帯の既婚女性は、上記の「もの」を同様に利用していた。

### 2) 竹 (オイシ *oishi*)

竹製品は計6品目観察した。次の3つは、6世帯の既婚女性全員が利用していた。1) 混ぜ棒 (カムツァ *kamtsa*) : 蒸した根茎類をつぶす目的で利用、2) アクシャ用の蓋 (カンバラ *kambara*) : アクシャの上にかぶせて、パン等を焼く際に利用、3) 籠 (ライツァ *raitsa*) : 穀類の選別、調理加工品の運搬などに利用。

## まとめと今後の展望

アリの人びとが日常生活で利用する「もの」について以下の3つのことがあきらかになった。1) 地域外から人や「もの」が大量に流入するようになってもお、土器、鉄製品、木工品などの地域内で流通している「もの」の利用は変化していない。2) アリの人びとは、地域内の「もの」と外からもたらされた「もの」の両方を利用している。また、女性に焦点をあてると、3) 女性たちは世代、宗教、経済的背景に関係なく、同じように地域内の素材で製作された台所用品を利用していることがあきらかになった。

今後は、アリの人びとのあいだでは、なぜ地域内の素材で製作された「もの」が変わらず利用されているのかを、地域内の「もの」の利用のされ方や流通、さらにはその製作方法にも注目して調査をすすめていきたい。

## 注

- (1) この研究では、アリの人々が利用するさまざまな「(広義の)もの」(耐久消費財ばかりではなく、消耗品のようなものまで)を対象にして議論をおこなう。本稿ではそのなかでも予備調査で特に焦点をあてた生活用具、台所用品などの「(狭義の)もの」について注目する。
- (2) この予備調査は、文部科学省による大学院教育改革支援プログラム「研究と実務を架橋するフィールドスクール」の支援をうけ可能となりました。これらの機関ならびに関係者の方々に深くお礼申し上げます。
- (3) Gebre [1995]によれば、1ヘクタールは、8～10ティマッドに相当する。金子 [2011]によれば、1ティマッドは2頭のオスウシが半日で耕起する面積に相当する。

参考文献

<邦文>

- 金子守恵. 2011. 『土器づくりの民族誌—エチオピア女性職人の地縁技術』. 昭和堂. 京都.  
重田真義. 1988. 「ヒト-植物関係の実相—エチオピア西南部農耕民アリのエンセーテ栽培  
と利用」『季刊人類学』 19(1): 191-281.

<欧文>

- Gebre, Y. 1995. *The Ari of Southwestern Ethiopia: An Exploratory Study of Production Practices, Social Anthropology  
Dissertation 2*, Addis Ababa University, Addis Ababa.